

（毎月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日十回發行）

縣報 第五百四十五號

明治三十九年四月廿四日 和歌山縣

○公文

○和歌山縣訓令第十一號

郡	役	所
警	察	署
全	分	署
市	役	所
町	役	場

傳染病豫防手續左ノ通り相定ム

但明治三十年十月本縣訓令第三四六號ハ廢止ス

明治三十九年四月廿三日

和歌山縣知事

伯爵 清 棧 家 敷

傳染病豫防手續 第一章 通則

第一條 傳染病ノ豫防ハ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法全年内務省令第十一號傳染病豫防法施行規則全第十三號消毒方法消毒方法ニ依ルノ外尙キ本手續ニ依リ其ノ周到ヲ計ルヘシ

縣報第五百四十五號

明治三十九年四月廿四日

第三種郵便物認可

第二條 市町村長ニ於テ傳染病豫防法第三條第四條ノ届出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ直ニ別紙第一號又ハ第二號ノ様式ニ依リ報告表ヲ製シ市長ハ當廳ニ町村長ハ郡役所ニ送達シ郡役所ニ於テハ該報告表ニ依リ原簿ニ登録シ即時當廳ニ轉送スヘシ

第三條 警察署、分署又ハ巡查駐在所ニ於テ傳染病豫防法第三條第四條ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ所轄ノ市役所又ハ町村役場ニ移送スヘシ但派出所ニ於テ本條ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ所屬署長ニ送達スヘシ

駐在所ニ於テハ前項ノ届出ヲ受理シタル時ハ別紙第三號第四號様式ニ依リ報告表ヲ製シ所屬署長ニ急報スヘシ

但駐在所ニ於テ傳染病豫防法施行規則第二條ノ通報ヲ受ケタルトキ亦同シ

第四條 豫防消毒上他ノ所轄ニ牽連スルモノハ警察署、分署ニ於テ其關係アル警察署、分署ヘ急報スヘシ但郡市役所、町村役場ニ於テ警察署、分署ニ先ダチ之方施行ノ必要ヲ認メタルトキハ其關係アル郡市役所、町村役場ヘ急報スヘシ

第五條 左ノ場合ニ於テハ警察署、分署、巡查駐在所、市役所、町村役場ハ互ニ通報シ市役所、町村役場ハ醫師ヲシテ檢診セシムヘシ

- 一 途上發病者ニシテ傳染病ノ疑アルトキ
- 二 傳染病ノ疑ヒアル患者又ハ死者アルトキ
- 三 交通遮斷又ハ隔離中檢診ノ必要アルトキ
- 四 醫師二人以上診察ヲ異ニシタルトキ

第六條 左ノ事項ニ係ルモノハ關係郡市長、警察署長、分署長協議ノ上事實ヲ具シテ當廳ヘ稟申スヘシ

一 傳染病豫防法第一條列記以外ノ傳染病流行ノ兆アリテ豫防方法施行ノ必要ヲ認ムルトキ

二 傳染病流行ノ虞アル爲疑似症ニ對シ傳染病豫防法ノ適用ヲ必要ト認ムルトキ

三 傳染病豫防法第十九條列記事項ノ一部又ハ全部施行ノ必要ヲ認ムルトキ

四 全法第二十七條ノ施爲ヲ必要ト認ムルトキ

第七條 郡長、警察署長、分署長ニ於テ傳染病豫防法第二十六條ノ施行ヲ必要ト認メタルトキハ

市役所又ハ町村役場ヲシテ實行セシムヘシ

第八條 郡市長、警察署長、分署長ハ其管内ノ病況及豫防消毒法執行ノ現況ヲ初發ノ際ハ其ノ時

々以後ハ一週間毎ニ當廳ヘ報告スヘシ

第九條 市町村ニ於テ傳染病流行ノ兆アルトキハ直ニ便宜ノ場所ヘ豫防事務所ヲ設ケ豫防消毒ニ

關スル事務ヲ取扱フヘシ

第十條 豫防事務所ニハ警察官吏、豫防委員(豫防委員ヲ置カザルトキハ市町村吏員及醫師)等計

合フヘシ

第二章 患者、死体并病室汚物ノ處置

第十一條 傳染病患者ハ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ

但屬室扶斯、猩紅熱、實布の利亞病ノ患者ニアリテハ相當設備アル病院ニ入ラシメ又ハ左ノ各號

ニ該當スルモノニ限リ自宅治療ヲ爲サシムルコトヲ得

一 病室ニ專用スヘキ適當ノ室アルトキ

二 専從スヘキ看護人アルトキ

三 主治醫アルトキ

四 患者ニ専用スヘキ什器器具ヲ有スルトキ

五 消毒用器具藥品ヲ準備シ得ルトキ

六 營業及生活狀態并周圍ノ狀況ニシテ病毒傳播ノ虞ナシト認ムルトキ

第十二條 傳染病院又ハ隔離病舎ヘ送ルヘキ患者コシテ左ノ場合ニ係ルトキハ一時送出手停止ス

ヘシ

一 醫師ニ於テ死ニ瀕スルト認メタルトキ

二 暴風雨又ハ互寒炎熱等ノ爲著シテ身体ニ障害ヲ與フルノ虞アルトキ

第十三條 移送スヘキ患者ニハ其病狀ニ依リ飲料ニ供スヘキ湯、水又ハ氷若クハ嗽盤、便器其ノ

他必要ナル藥品等ヲ携帶セシムヘシ

第十四條 病室ニ於テハ患者ノ外飲食喫烟セシムヘカラス

第十五條 患者ニ供シタル飲食物ノ殘餘ハ消毒ノ上投棄シ其ノ器具ハ使用ノ都度消毒セシムヘシ

第十六條 病室ニハ醫師看護人ノ外限リニ出入セシムヘカラス

但事情已ムヲ得サルモノハ第三十七條第三項ニ準シ取扱フヘシ

第十七條 病室ノ塵埃ハ消毒ノ上覆蓋ヲ有スル一定ノ容器ニ留メ置キ燒棄スヘシ

第十八條 患者ノ吐瀉物及病毒ニ汚染セシ物品ハ覆蓋ヲ有スル一定ノ容器ニ容レ蚊蠅等ノ集マラ

サル様注意シテ處置スヘシ

第十九條 自宅療養ノ患者ハ當該吏員ニ於テ常ニ巡視シ豫防消毒ノ整否ヲ監督スヘシ

第二十條 自宅療養ノ患者ニシテ當該吏員ノ指示ニ從ハス爲メニ病毒傳播ノ虞アリト認ムルトキハ即時傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘレ

第二十一條 當該吏員、醫師、看護人、人夫等コシテ病毒ニ汚染スルノ虞アル事務ニ從事スルトキハ消毒ニ便ナル被服ヲ着用セシメ使用後ハ其ノ都度消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第二十二條 患者ヲ他室ニ移シタルトキハ即時前病室ニ消毒方法ヲ行ハシムヘシ

第二十三條 患者ヲ移送シ又ハ死体吐瀉物其ノ他病毒ニ汚染セシ物品ヲ運搬スルトキハ途上取替ノ爲巡查又ハ市町村吏員ヲ附スヘシ

第二十四條 患者又ハ死体ノ移轉ヲ請フ者アルトキハ詳細事實ヲ調査シ差支ナシト認ムルモノニ限リ警察官吏、市町村長、豫防委員會議ノ上認可スヘシ但其ノ移轉地他ノ市町村ニ係ルモノハ警察官ノ承認ヲ要ス

前項ニ依リ認可シタルトキハ直ニ移轉地ノ警察署、分署、市役所、町村役場ニ通報スヘシ

第二十五條 傳染病豫防法施行規則第七條第二項ノ協合ニ於テハ警察官吏、市町村長、豫防委員會議ノ上其ノ事由及關係地ノ狀況等ヲ調査シ病毒傳播ノ虞ナシト認ムルトキニ限り消毒方法ヲ施行セシメタル上認可スヘシ

第二十六條 死体ノ土葬又ハ改葬ヲ請フ者アルトキハ事情已ムテ得タルモノニシテ且左ノ各項ニ適當スルモノニ限り特ニ之ヲ許可スヘシ但巡查ヲ派シテ監査セシムヘシ

一 清潔方法消毒方法第十一條第二ニ依リ十分ノ消毒ヲ爲スモノ

二 汚汁滲漏ノ虞ナキ棺ヲ用フルモノ

三 擴穴ハ埋棺後棺蓋ノ地面ト五尺以上ノ深キヲ保タシムルモノ

四 埋棺後棺底ハ地下水ト三尺以上ノ距離ヲ有スル土地

五 棺ノ周圍ニ一尺以上ノ生石灰ヲ撲充スルモノ

六 人家、河川、溪流、溝渠、池、沼井戸及飲用雜用ニ供スル泉水等ヲ距ル六十圓以上

第二十七條 死後二十四時間内ニ火葬又ハ土葬ヲ請フ者アルトキハ醫師ノ死亡証若クハ檢査書ヲ調査シ認可ヲ與フヘシ

第二十八條 傳染病豫防法第十三條ニヨリ死体發掘ノ處分ヲ要スルトキハ當廳ヘ其事由ヲ具シ指彈ヲ請フヘシ

第二十九條 燒却スヘキ物品ハ燒却場ニ送り燒却セシムヘシ

但容易ニ燒却シ得ヘキモノハ危害ナキ場所ニ於テ燒却セシムルモ妨グナシ

第三十條 傳染病豫防法第十二條第二項但書ニ依リ改葬ノ許可ヲ請フ者アルトキハ警察署長、分署長、(警察署長)ヨリ事實ヲ具シテ當廳ノ指揮ヲ請フヘシ

第三十一條 患者ノ沐浴シタル湯水ハ消毒ノ上無害ノ地ニ投棄セシムヘシ

第三十二條 市町村ニ於テハ患者又ハ死体、吐瀉物其ノ他病毒ニ汚染セル物品ヲ運搬スヘキ器具、人夫并消毒用器具及藥品ハ警察署長、分署長ト協議シ常ニ差支ナキ準備置クヘシ

第三章 交通遮斷及隔離

第三十三條 警察官吏又ハ檢疫委員ニ於テ虎列拉、赤痢、發疹瘰癧、「ベスト」患者發生ノ家又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑ヒアル家ニ對シ交通遮斷ヲ爲シ病毒ニ汚染シ若クハ病毒ニ汚染ノ疑ヒアル者ヲ隔離シタルトキハ即時市役所又ハ町村役場ニ通報スヘシ

第三十四條 前條ニ掲グルル以外ノ傳染病ト雖モ患者、死者アル間及患者ヲ入院、入舎セシメ又ハ

患者ノ治療、死亡シタル後消毒方法ヲ了ル迄ハ溢リニ其家ニ他人ヲ出入ヲ爲サシム可カラズ
第三十五條 交通遮断ヲ爲シタル家又ハ隔離所及隔離所ト見做シタル家ニハ巡查又ハ市町村吏員
ヲ附テ取締ヲ爲サシムヘシ若シ遮断箇所夥多ニシテ悉ク配置シ難キトキ又ハ之ヲ附セサルモ豫
防上差支ナシト認ムルトキハ此限ニアラス

第三十六條 赤痢ニ在テハ病毒傳播ノ虞ナシト認ムルトキニ限り隔離ヲ省略スルコトヲ得
但此場合ニ於テハ隔離日時ニ相當スル期間毎日健康状態ヲ觀察シ必要アルトキハ健康診断ヲ
行ハシムヘシ

第三十七條 市町村長ハ交通遮断又ハ隔離サレタル者ノ飲食物其他日用品ノ買入等ニ差支ナカラ
シメ又ハ交通遮断、隔離ノ爲自活シ能ハサル者ニハ其生活ニ必要ナル手當ヲ爲スヘシ

第三十八條 家屋廣潤ナルカ又ハ別棟ニシテ患者發生ノ場所ニ關係ナク病毒傳播ノ虞ナシト認ム
ル部分ハ之ヲ除キ交通遮断ヲ爲スコトヲ得
第三十九條 官衙若クハ公署ニ奉仕スル者ニシテ交通遮断又ハ隔離セラレタルトキハ速ニ其ノ官
該官衙若クハ公署ニ通報スヘシ

第四十條 隔離所ト見做サレタル家ニシテ雜役ニ供スヘキ人ナク又之ヲ雇入ル、賣力ナキ者ハ市
役所又ハ町村役場ニ通知シ人夫ヲ差出サシムヘシ

第四十一條 交通遮断及隔離施行中ハ左ノ各項ニ依リ取扱フベシ
一 遮断區域中ノ物品ヲ區域外ニ搬出セントスルトキハ相當ノ消毒法ヲ施サシムルヘシ
二 一時外出ヲ請フ者アルトキハ事情已ムテ得サルモノニ限り醫師ヲシテ檢診セシメ異狀ナキ
モノハ消毒ノ上許可スヘシ

三 交通遮断又ハ隔離中ノ者ニ會テ求ムル者アルトキハ事情已ムテ得サルモノニ限り之ヲ許
可シ退去ノ際ハ消毒法ヲ行ハシムヘシ
第四十二條 隔離所又ハ隔離所ト見做サレタル家ニ於ケル收容者ニ付テハ隔離期間日々健康診断
ヲ行フヘシ

第四章 雜則

第四十三條 隔離所又ハ隔離所ト見做サレタル家ニハ殿ニ内外ノ交通ヲ禁止スヘシ
第四十四條 公立、私立學校、劇場、青席其ノ他興行場又ハ宿屋料理店等多人數集合ノ場所ニ思
者發生シタルトキハ特ニ注意ヲ加ヘ檢疫豫防ノ手續ヲ迅速施行シ且患者ニ觸接セス又ハ病室等
ニ出入セサル者ニシテ病毒傳播ノ虞ナシト認ムル者ハ速ニ立退カシムヘシ

第四十五條 退去ヲ命ジタル者ハ其住所氏名ヲ調査シ一面關係市町村役場又ハ警察署、分署ニ通
知シ數日間其狀況ヲ觀察セムヘシ
第四十六條 船舶内ニ於テ發生シタル患者ハ傳染病院若クハ隔離病舎ニ之ヲ送り船中ニ於テ治療
セシムヘカラス但虎列拉、赤痢、發疹室扶斯、「ベスト」患者ニシテ其船舶乗組人ノ隔離ニ必要
ト認ムルトキハ規定ノ期間間適宜ノ場所ニ緊留セシムヘシ

第四十七條 漁車内ニ於テ發生シタル患者ハ傳染病院又ハ隔離病舎ニ送り病毒ニ汚染シ若クハ汚
染ノ疑ヒアル者ハ隔離所ニ送ルヘシ

第四十八條 前條ノ船舶、漁車ニ積載ノ貨物ニシテ病毒汚染ノ虞アルモノハ消毒法ヲ行ヒタル後
ニアラサレハ陸揚ケテ爲サシムヘカラス
第四十九條 病毒河川港灣内ニ混入シ豫防ノ必要アリト認メタルトキハ警察署、分署ニ於テ即時

其關係警察署、分署、市役所町村役場ニ急報レ一時仮リニ左ノ豫防法ヲ施行シ直ニ其ノ旨當廳ニ急報シ指揮ヲ待ツヘシ但此場合ニ於テ家用 waters 供給ノ必要アルトキハ市町村長ニ於テ其供給ヲ爲スヘシ

一 河水ノ汲取及其ノ飲用ヲ禁スルコト

二 漁撈及游泳ヲ禁スルコト

三 衣服又ハ物品ノ洗濯ヲ禁スルコト

第五十條 市町村傳染病院又ハ隔離病舎ノ開閉ハ市ハ直ニ町村ハ郡役所ヲ經テ其月日ヲ當廳ニ報告スヘシ

第五十一條 市町村ニ於テ豫防法第十九條ノ二ニ依リ建物ニ對シ別段處分方ノ諮問ヲ受ケタルトキハ直ニ市町村會ヲ開キ町村ハ郡長ヲ經テ其意見ヲ開申スヘシ

但該建物ニ對シ全時ニ三名以上ニ評價セシメ及建物ノ平面圖並構造ノ概況ヲ調査シ添申スヘシ

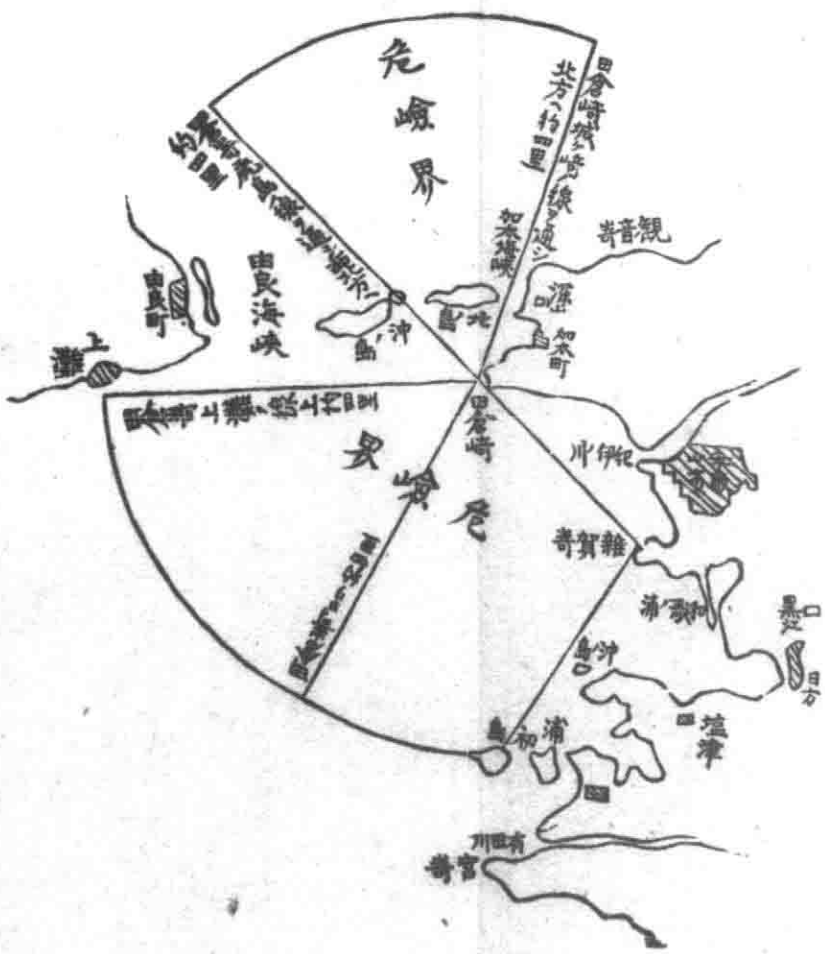
第五十二條 郡長、市長ハ前條ニ依リ市町村會ノ意見ニ對シ警察署長分署長ニ協議シ建物處分ニ要スル土地ヲ選定シ周圍ノ關係ヲ調査シ費用ノ見込ヲ立テ意見ヲ撰テ進達スヘシ

第五十三條 傳染病院、隔離病舎、隔離所ニ消毒所ノ設備及管理方法ハ別ニ定ムル處ニ依ル

(様式ハ別ニ頒ツ)

○和歌山縣告示第八十號

來ル四月二十三日ヨリ約壹週間(雨天順延)紀淡海峽ニ於テ實際射擊施行ニ付左ノ區域ニ示セル海上危險界ニ立入ラザル權注意スヘシ
 射擊當日ハ發射間發射砲臺ニ赤旗ヲ植立セラル
 明治三十九年四月廿一日
 和歌山縣知事 伯耆 清 棧 家 秋



○和歌山縣告示第八十一號

左記ノ者ニ對シ小學校教員無試験檢定ニ依リ各頭書ノ教員免許狀ヲ授與セリ

明治三十九年四月二十三日

和歌山縣知事 伯爵 清 藤 家 敬

記

小學校本科正教員

富山縣平民

松本 傳次郎

明治三十三年一月生

和歌山縣平民

西田 イト

明治十八年七月生

兵庫縣平民

片山 莞爾

明治十七年六月生

山形縣士族

土佐 林 勇雄

明治十五年十月生

和歌山縣士族

山本 英 男

明治十五年三月生

全

全

全

全

縣報第五百四十五號

明治三十九年四月廿四日

第三編郵便廳可

七

尋常小學校本科正教員

和歌山縣平民

上田 楠 枝

明治二十一年三月生

和歌山縣平民

三木 エイ

明治二十一年一月生

和歌山縣士族

仙石 嘉

明治二十一年四月生

和歌山縣平民

池見 次三

明治二十一年十一月生

全

原 ちよの

明治二十一年一月生

全

山田 文之助

明治十五年八月生

小學校准教員

全

全

全

全

和歌山縣平民

月日	明治三十九年四月十九日		明治三十九年四月十九日		明治三十九年四月廿四日		明治三十九年四月廿四日	
	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年
平均気温	七六二純五	七六三純一	七五四純八	七六九純〇	七五五純九	七六八純〇		
平均気温	一四度一	一三度三	一九度〇	一三度二	一四度九	一四度九		
最高気温	二二度二	二〇度六	二二度〇	一九度八	一八度〇	二二度〇		
最低気温	五度一	四度九	一六度八	五度六	九度二	六度七		
最多風向	南	東北東	南	北	北西	東		
平均風力	四米一	三米四	九米七	二米九	四米三	五米三		
天気	晴	晴	晴又曇	晴	曇	晴		
雨量	!	!	一〇純七	!	!	!		
記事現象	午前及午	!	午前八時	!	午前十時	午后南西		

○観測

明治三十九年四月十九日、二十三日開雪地氣象概況

右四月二十日開可ス

明治三十九年四月廿四日

第三種郵便認可

八

○村長助役ノ異動

海草郡三田村有給助役 山 棚 石 次 郎
 有田郡笑島町助役 畠 田 金 吉
 日高郡丹生村長 平 井 貞 藏

全	尋常小學校准教員	全	村 山 淨 顯	全	明治十九年五月生
全		全	村 山 淨 顯	全	明治十九年五月生
全		全	崎 山 浪 子	全	明治二十年五月生
全		全	生 胸 茂	全	明治十六年十一月生
全		全	稻田 彦之 重	全	明治十二年十月生

縣報第五百四十五號附錄
訓令第十一號様式

明治三十三年五月八日第三種郵便物認可

第壹號様式 (用紙半紙半葉赤罫)

市役所 醫師届書領收何日何時
町村役場 本表發送 何日何時
郡役所 本表領收 何日何時

明治何年何月何日何病報告表

何市役所
町村役場

市町村長又ハ代理者

番號	發病原因	發病月日時	醫師診察月日時	主治醫氏名	療養場所	住所	職業	戶主氏名ノ性別	患者氏名	年齡	新合計		
											男	女	
一	何々	何月何日何時	何月何日何時	何誰	何々	何町村大字何番地	何々	何誰	何々	何誰	何年	男	女
二													
三													
四													
五													
舊合計												男	女

備考 實布埜利亞病患者報告書ニハ血清治療ノ者ハ血ノ字ヲ番號欄ニ朱記スヘシ
戶主トノ續柄ハ長男、二女、妻、母等ヲ記入スヘシ

縣報第五百四十五號附錄 明治三十九年四月廿四日 第三種郵便物認可

第貳號様式 (用紙半紙半葉黑罫)

郡役所 本表領收 何日何時

市町村長又ハ代理者

明治何年何月何日何病轉歸報告表

何市役所
町村役場

番號	全治月日	死亡月日時	火葬月日時	土葬月日時	戶主氏名	患者氏名
四	何月何日	何月何日何時	何月何日何時	何月何日何時	何誰	何誰
六						
三						
五						
七						

備考 番號ハ發病報告表ト全番號ヲ付スヘシ

縣報第五百四十五號附錄 明治三十九年四月廿四日 第三種郵便物認可 三九

患者番號		第 號		轉歸後豫防消毒手續一班	
全治月日	死亡月日	火葬月日	土葬月日	戶主氏名	患者氏名

何病患者轉歸報告表

右及報告候也
 署 長宛
 年 月 日
 巡査 何 某印

第四號様式 (用紙半紙)

項 事	
實布廷利亞、赤痢、 腸室扶斯、虎列拉 「ベスト」ニ在テハ 血清療法ヲ行ヒタ ルコトノ有無有 フ 何血清ナ何時	無有
其 時 月 日 午 時 後 自 回	其血清 其分量
隔離セルメ ヲル人員 交通遮斷ヲ行 ヒタル戸數	其人員
隔離ノ 場所	

右及報告候也
 年 月 日
 署 長宛
 巡査 何 某印